

新型コロナウイルスへ三重県の経済対策

オール三重態勢で様々な支援を行っています

三重県内では、新型コロナウイルス感染症の影響により、宿泊のキャンセル等が発生している観光業をはじめ、中国国内の生産活動の停滞等によりサプライチェーンに毀損が生じている製造業のほか、学校の臨時休校等により様々な業種に売り上げや受注の急減、生産活動の停滞、雇用の維持に関してなどの課題が拡大しています。

また、この様な経済活動だけでなく、広く県民生活にも大きな影響を与えていたる状況です。

この様な状況をこのまま放置すれば三重県経済の基盤が崩壊しかねません。

このため、三重県では国の緊急経済対策と連動しながら、県内経済団体、金融機関、支援機関等「オール三重」体制で推進して以下の項目について支援を行っています。

1、事業活動への支援

- ① 資金繰り支援策
- ② 回復軌道に乗せるための資金支援
- ③ 雇用・調整助成金などの緊急的な支援
- ④ 観光業への支援
- ⑤ 農林水産業への支援
- ⑥ 医療機関・福祉施設等への支援
- ⑦ その他の事業活動支援

今後についても刻一刻と変化する状況に対応するため必要に応じて対策を追加するとともに、感染拡大が収束の兆しが見えるときには、事業の成長を軌道に乗せる取り組みを中心とした対策を実行していきます。

2、生活者支援

- ① 個人向け生活資金支援
- ② 子どもに対する支援
- ③ 雇用支援
- ④ きめ細かな総合的支援等



詳しくは三重県ホームページ「新型コロナウイルス感染症に関する三重県緊急経済対策」をご覧下さい。

電線の地中化

観光地の魅力向上に繋げるために…

日本では国道や県道沿い、また、市街地などを通行していると電柱が建ち道路上や家の周りを見上げれば電線が張り巡らされています。そんな風景を当たり前のように過ごしてきています。しかし、外国の方から見ると不思議な風景に見えるそうです。

このような状況を改善すべく国においては、H28年12月に無電柱化の推進に関する法律が制定され、この法律に伴い三重県におきましても無電柱化推進計画を策定し、令和2年度までに12.3kmを目標に無電柱化を進めてきています。

しかし、地中化には多額の費用がかかる(電柱3000万円/1km)(地中化3億円/1km)ため一気に進める事は難しいとのことで、現在の進捗率も県全体の1%程度に留まっています。

三重県の計画では、無電柱化を進める対象道路については、「防災」「安全・円滑な交通の確保」「景観形成・観光振興」に資する道路を対象として進めていくとしており、現在、防災面から緊急輸送道路を中心に進められ、隣の伊勢市においては、伊勢市駅から外宮までが地中化されています。

鳥羽市内においても、鳥羽の玄関口である鳥羽駅周辺や海岸線、また、市街地周辺の無電柱化が進められればもっと素晴らしい景観になり、観光地の魅力向上に繋げられると思います。

鳥羽市は、国際観光文化都市として、良好な景観形成・観光振興の観点から無電柱化の推進は重要な課題であることから、今後の目標として取組んで行きます。

因みにロンドン、シンガポール、台北等は100%。東京8%大阪6%の進捗です。



クリアしてマリンターミナルの出発地点へ戻つてきました。その技術の高さに感心するとともに、近い将来の実用化に向けて大きな期待が膨らみました。

このまま実用化が進めば離島を含めた過疎地域に於いて、緊急時の医薬品の配達、高齢者などの買い物弱者への支援、防災では災害発生時の現地確認や救援の手段等幅広い活用が見込まれます。

今後、過疎化が懸念される地域に於いては早期の実用化が望まれるところです。

1月30日にマリンターミナルで、「空の移動革命」に向けた実証実験が渡辺副知事も見えた中で行われました。

この実証実験は熊野市・南伊勢町に続いて3例目で、自動操縦による大型ドローンを使い先ず坂手漁港へ向かい、そこで旋回した後、鳥羽シーサイドホテルを経由してマリンターミナルへ帰つてくるというものです。

その日は結構強い風が吹く中、上手く飛びたてるのか、鳥羽シーサイドホテルと坂手島の間には高圧の電線があり、どの様に交わして行くのか心配していましたが、電線のある所に差し掛かると自動操縦にも関わらず高度を上げて簡単にミナルへ帰つてくるというものです。



空飛ぶクルマ ドローンの多目的な活用実験

2月

日々の活動

1日(土)	石神マラソン準備
2日(日)	石神マラソン 自民党知事懇談会(伊勢)
3日(月)	3月議会に向けて打合せ(県庁)
4日(火)	鳥羽市議会議員と視察(東京)
5日(水)	// (東京)
6日(木)	// (東京)
10日(月)	政策担当者会議(県庁)
11日(火)	建国記念式典(神明神社)
12日(水)	全員協議会(県庁)
16日(日)	自衛隊家族会議(津)
17日(月)	政策担当者会議(県庁)
18日(火)	議案聞取り会(県庁) 南勢高校活性化協議会(県伊勢庁舎)
19日(水)	里親講習会(相差)
20日(木)	一般質問通告レク(県庁)
22日 土	神島調査
23日(日)	軟式野球連盟鳥羽支部総会(鳥羽武道館)
24日(月)	石原修二氏コンサート(伊勢)
25日(火)	代表質問
26日(水)	鳥羽警察署聞き取り
27日(木)	一般質問(県庁) ウェットスーツ講習打合せ

3月

1日(日)	鳥羽高校卒業式
2日(月)	一般質問(県庁)
3日(火)	本会議(津)
4日(水)	鳥羽市議会と打合せ(鳥羽市役所)
5日(木)	一般質問・質疑(県庁)
6日(金)	総括質疑(県庁)
7日(土)	後援会証書取り付け(鳥羽市内)
9日(月)	委員会・都市計画審議会説明(県庁)
10日(火)	委員会(県庁)
11日(水)	相差旅館組合聞き取り ウェットスーツ講習会(女活センター)
12日(木)	委員会(県庁)
14日(土)	自民党県連役員会(津)
15日(日)	海の博物館理事会(海博)
17日(火)	委員会(県庁)
18日(水)	自衛隊訓練慰問(ひだまり)
19日(木)	本会議(津)
20日(金)	相差町内会総会
23日(月)	県外視察(沖縄)
24日(火)	県外視察(沖縄)
25日(水)	県外視察(沖縄)
26日(木)	都市計画審議会(津)
27日(金)	伊勢湾の水質を考える議員連盟視察(本浦)
29日(日)	ロータリークラブ奉仕作業(城山公園)
31日(火)	本会議(津)

石神さんマラソン

晴天の下、男性も参加して南鳥羽を駆け抜けました



2月2日、畔蛸漁港を主会場とした第5回石神さんマラソンが開催されました。前回迄は、『石神さん女子マラソン』でしたが今回から10キロコースから男性も参加できることから女子を外し『石神さんマラソン』となりました。

ハーフマラソンのコースは、弘道小学校前をスタートしてから国崎方面へ走り、パールロード国崎ICまで駆け上がり旧的矢料金所を折り返して相差ICまで戻り、畔蛸漁港まで一気に駆け下るコースで、ランナーにとっては今回も非常にハードな厳しいコースだったと思います。

当日は、風も無く晴天に恵まれ、これまでに開催された中でも最高の日に開催できたことを、参加者の皆さんスタッフ共々本当に喜んでいました。

開会式には、渡辺副知事始め中村市長も出席していただく中で、特に、各コースのスタートターに、ハーフマラソンは鈴木知事の奥さんの武田美保さん、10キロはリオ

オリンピック5千メートル代表の尾西美咲さん、5キロはサッカー元名古屋グランパスの小倉隆文選手など豪華なアスリートを迎えて頂き、小倉選手と中村市長と一緒に走っていただきなど盛大に行われました。

メイン会場の畔蛸漁港には、沢山の出店やステージイベントもあり、選手と地域が一体となって実施出来的イベントだと感慨深い気持ちになりました。

鳥羽市も新人海女さんたちにウェットスーツの新調に補助金を交付するなど応援してきておりましたが、道具の機能や



3月11日、相差女性活動センターでウェットスーツの機能と効果について講習会を行いました。地元の若手海女さんの多くは何故ウェットスーツを着用すると寒さが防げるのか、道具は揃えたが機能が分からなければ、上手な着脱の方法を教えて欲しい、そんな悩みが多い事から今回の講習会を開催しました。

東京ビジュアルアーツ写真学科講師で亀潜人(かめせん)

にん)代表の三沢克弘氏を講師に迎えて講演をしていただきました。

応答があり、海女達

から

ウエットスーツの

中に肌着などつける方

が良いのか? ウエイ

ト(おもり)のバランス

はどう様に調整すれば

良いのか? 帽子や足

袋はどう様な効果があ

るのか等、様々な質問が

あり活気のある講習会

になりました。

鳥羽市も新人海女さ

んにウェットスーツの

新調に補助金を交付す

るなど応援してきてお

ります。

また、「海女と真珠のふるさと 鳥羽!」への取組にも積極的に参加していきます。



頑張る海女さん応援

道具の機能や使用方法を学ぶ講習会開催